

我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業のうち漁場形成・漁況予測事業

漁海況予報関連調査

丸山 拓也・倉田恵吉・館 洋・笹木 大地・福田 遼

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて、漁海況情報としてホームページ等で情報提供した。

結果の概要

詳細については令和 2 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告するので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、平成 29（2017）年 8 月下旬に黒潮が大蛇行流路となり、令和 2（2020）年度は一時的な流路変化はありつつも、大蛇行流路が継続した。

4～6 月には、蛇行北上部の S 字が強まって熊野灘に接近するパターンが繰り返しまれた。蛇行の最南下部は 3 月には 30° N あたりにあったが徐々に南下し、6 月は 29° N 付近が継続した。7 月初め頃に最南下部が 30° N 付近で切離し、蛇行の規模が縮小した。7 月以降も黒潮流路は極めて不安定で、蛇行の南端が切離と接合を繰り返した。10 月上旬の蛇行南端の切離時は蛇行の規模が縮小して潮岬への接岸傾向が強まり、B、N 型様の流路となったが、四国沖で発達した小蛇行が東進して再度大蛇行流路（A 型）となった。その後も冷水塊渦は東進を続けながらも、12 月は蛇行北上部が遠州灘に接近する状態が継続した。12 月以降、黒潮はおおむね大蛇行流路（A 型）で推移し、年始前後に非典型的 A 型となった。1 月中旬には再度典型的 A 型となったが、同時に D 型の流路も示した。12 月と 2 月には大蛇行北上部が西偏して遠州

灘に接近した後切離し、残された暖水が小暖水渦を形成した。3 月は大蛇行北上部が東に移動し、中旬以降は非典型的 A 型となったが、遠州灘への暖水波及は続き、逆流や暖水渦を形成した。

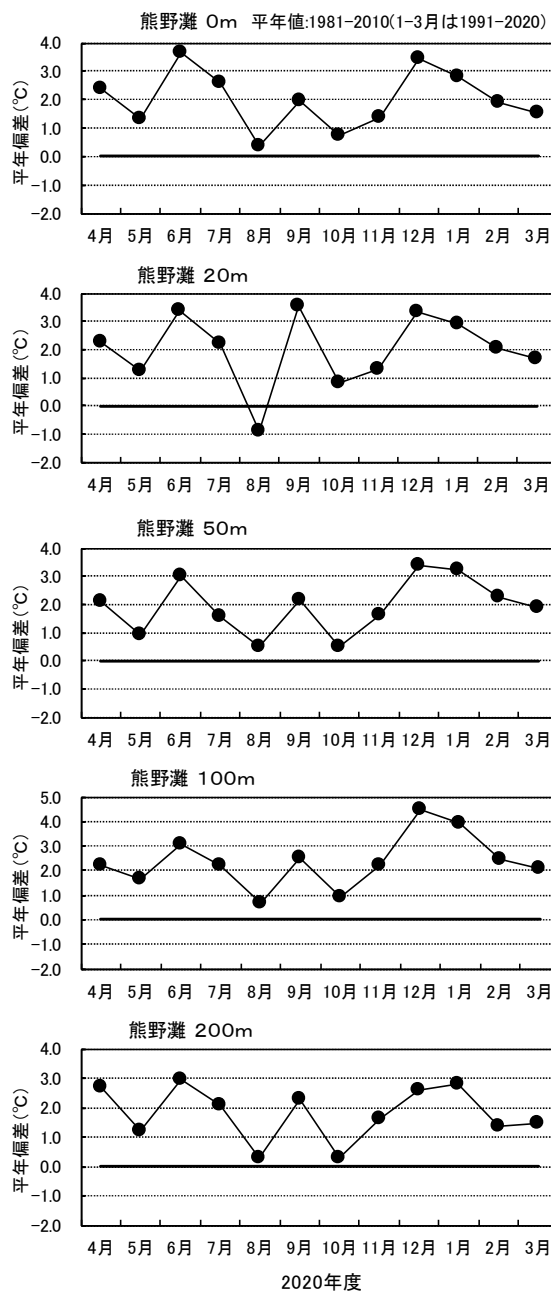


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の 2020 年度 年平均偏差

2. 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温は、年度を通しておおそやや高め～高めで経過し、黒潮系暖水の影響によってかなり高めとなった(図1)。

4月上旬に黒潮が大王埼に接近して内側逆流が発生し、顕著な高水温傾向になったが、月後半は平年に近づいた。しかし、5月上旬中旬に黒潮が接近し、6月上旬までかなり高めの水温となった。また、6月末から南寄りの強風が続いて熊野灘の広範囲で沿岸湧昇が発生し、沿岸の低水温傾向は7月下旬まで継続した。8月は猛暑に加えて中旬に黒潮接岸、下旬は内側逆流波及があり、顕著な高水温であった。黒潮接岸時には、潮影となった志摩半島東岸～渥美外海では顕著な水温の低下がみられた。9月は黒潮からの暖水の波及が継続したが、下旬には降温して平年値に近づいた。10月に、中旬以降は断続的な暖水の波及により水温はやや高めで推移した。11月は黒潮が熊野灘東沖で北上し、内側逆流や暖水の波及が継続した。12月は遠州灘に接近した黒潮からの暖水波及が継続し、顕著な高水温となった。1月は小暖水渦が下旬にかけて熊野灘の沖合を南下し、黒潮内側逆流が波及して高水温となった。2月は西偏した蛇行北上部が大王埼に接近し、熊野灘への暖水の波及が継続した。3月は暖水渦の通過や逆流の波及が相次いだ。

浜島の定地水温は、4月上旬はやや高め、中下旬は平年並～やや低め、5月上旬は平年並、中下旬はやや高め～高め、6月はやや高め～高め、7月上旬はやや高め～やや低め、中旬はかなり低め～平年並、下旬はやや高め～やや低め、8月上中旬はやや高め～高め、下旬はかなり高め～やや低め、9月上中旬はやや高め～高め、下旬はやや高め～平年並、10月上旬はやや高め～高め、中旬は平年並～やや低め、下旬はやや高め～平年並、11月上旬は平年並、中旬は平年並～かな高め、下旬は高め～かなり高め、12月上旬は高め～かなり高め、中旬はかなり高め、下旬はやや高め～かなり高め、1月上中旬はかなり高め～やや高め、下旬はかなり高め、2月は上中下旬ともかなり高め～高め、3月上中旬はかなり高め～やや高め、下旬は高め～かなり高めで経過した。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、4月は全層で高め、5月は全層でやや高め、6月は表層で高め、底層で平年並であった。

塩分は、平年に比して3月は全層で平年並、4月は表層でやや高め、底層で平年並、5月は表層でかなり高め、底層でやや高め、6月は表層でやや高め、底層で平年並、7月は表層でやや低め、底層で平年並み、8月は表層で高め、底層でやや低め、9月は表層で高め、10mでかなり高め、底層で高め、10月は表層で高め、底層でやや高め、

11、12月は全層でやや高め、1月は底層でやや低め、2月は全層で平年並、3月は表層は高め、10mおよび底層はやや高めであった。

伊勢湾の塩分は、塩分は、4月は表層でやや高め、底層で平年並、5月は表層でかなり高め、底層でやや高め、6月は表層でやや高め、底層で平年並、7月は表層でかなり低め、底層でやや高め、8月は表層でかなり低め、底層で平年並、9月は表層で高め、底層でやや低め、10、11月は全層で平年並、12月は表層でやや高め、10m、底層で平年並、1月は表層、10mでやや高め、2、3月は全層で平年並みであった。

DO(溶存酸素濃度)は、4月は全層で平年並、5月は表層でかなり高め、底層で平年並、6月の表層でやや低め、底層で平年並、7月は表層でかなり低め、底層でやや低め、8月は表層で平年並、底層でやや低め、9月は表層で平年並、底層で高め、10月は表層でやや低め、10mでかなり低め、底層でやや低め、11月は表層でやや低め、底層で平年並、12月は全層で平年並、1、2月は全層でやや低めであった(3月は欠測)。

伊勢湾内の底層における貧酸素水塊の分布については、6月2日に湾中央部で2ppm台の低酸素の分布が確認され、7月13日には湾内の広い範囲で、8月6日は7月より規模が拡大して湾内の広い範囲で、9月9日は沿岸域に沿って広い範囲で、10月1日は湾中央部と湾奥部にかけて2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていた。1ppm以下の貧酸素水塊は7月から10月に観測された。

白子の定地水温は、4月上旬はやや高め、中旬は平年並、下旬は平年並～低め、5月上旬はやや高め～やや低め、中旬はやや高め、下旬は高め、6月上旬は高め～やや高め、中旬は高め～やや低め、下旬は平年並～高め、7月は平年並～かなり低めで推移し、8月上旬はやや低め～やや高め、中旬はやや低め～やや高め、下旬は平年並～やや高め、9月はやや高め～高めで推移し、10月上旬は高め～やや低め、中旬はやや高め～やや低め、下旬は低め～やや高め、11月上旬は平年並～やや低め、中旬はやや低め～かなり高め、下旬は高め～やや高め、12月上旬は平年並～やや高め、中旬は低め～やや高め、下旬は平年並み～やや高め、1月上旬は平年並み～高め、中旬は低め～平年並み、下旬はやや低め～高め、2月上旬は平年並み～やや高め、中旬は平年並み～かなり高め、下旬は平年並み～やや高め、3月はかなり高め～やや高めで経過した。

関連報文

三重県(2021):令和2年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)